

刑事訴訟法 I

科目ナンバリング CRL-301

選択 2単位

堀田 晶子

1. 授業の概要(ねらい)

刑事訴訟法は、刑法を実現するための手続を定めた法律です。とはいえ、刑事訴訟法は刑法の助法にすぎないわけではありません。刑法と刑事訴訟法は、いわば車の両輪のようなもので、どちらが欠けても刑事裁判は成り立たないのです。刑事裁判は、犯罪が行われたか否か(有罪か無罪か)を確定し、有罪の場合は、それに対する刑罰をどうすべきかを判断する手続です。事件が発生すると捜査が始まり、場合によっては起訴されて裁判にかけられます。こうした一連の刑事手続に関する法律が、刑事訴訟法です。春期の授業では、逮捕・勾留をはじめとする捜査手続について勉強します。

2. 授業の到達目標

- ①刑事訴訟法に関する基本的な知識を身につけ、刑事手続の流れや仕組みを理解する。
- ②刑事訴訟法の各論点について、判例の立場や学説の対立を踏まえながら、自分の言葉で説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

基本的に試験によって評価しますが、感想文やレポート等の課題を出すこともあります。評価配分の目安は、試験90%、授業への貢献度10%です。授業への貢献度は、課題の提出や授業態度等によって総合的に判断します。

4. 教科書・参考文献

教科書

三井誠・酒巻匡 『入門刑事手続法 第7版』(2017) 有斐閣

田口守一 『刑事訴訟法 第7版』(2017) 弘文堂

参考文献

井上正仁・大澤裕・川出敏裕編 『刑事訴訟法判例百選 第10版』(2017) 有斐閣

田口守一・佐藤博史他 『目で見える刑事訴訟法教材 第3版』(2018) 有斐閣

井上正仁・酒巻匡・大澤裕他 『ケースブック刑事訴訟法 第5版』(2018) 有斐閣

5. 準備学修の内容

特に復習に力を入れてください。毎回の授業で扱ったテーマについて、レジュメやノートを読み返しながらか、復習しましょう。勉強すればするほど疑問がわいてきます。疑問点が出てきたら、テキストを繰り返し読みながら、まずは自分で考えてみましょう。図書館を大いに活用し、時には友人と議論してみてください。それでもわからない場合は、教員に質問してください。

6. その他履修上の注意事項

①刑法総論・刑法各論をすでに履修済み、あるいは並行して履修することが望ましいです。また、犯罪学・刑事政策、少年法・被害者学も並行して履修すると、刑事法全体に関する理解が深まります。

②授業をよく聞いて、その都度レジュメに書き込むか、ノートを取るようにしてください。自分で書いて、理解することが大切です。授業の内容が聞き取れなかった場合は、あやふやのままにせず、すぐに教員に確認してください。

7. 授業内容

- 【第1回】 オリエンテーションー刑法と刑事訴訟法ー
- 【第2回】 刑事訴訟法の目的ー判例を読みながら考えるー
- 【第3回】 捜査① 捜査の端緒・職務質問に伴う所持品検査の可否ー判例を読むー
- 【第4回】 捜査② 任意捜査と強制捜査／逮捕その1
- 【第5回】 捜査③ 逮捕その2／逮捕後の手続
- 【第6回】 捜査④ 勾留
- 【第7回】 捜査⑤ まとめ①
- 【第8回】 捜査⑥ まとめ②
- 【第9回】 捜査⑦ 捜査機関
- 【第10回】 捜査⑧ 搜索・差押えその1
- 【第11回】 捜査⑨ 搜索・差押えその2ー令状によらない搜索・差押えー
- 【第12回】 捜査⑩ 検証・鑑定
- 【第13回】 捜査⑪ 身体検査
- 【第14回】 捜査⑫ 強制採血・強制採尿
- 【第15回】 春期のまとめと試験(予定)